

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

アンケートの
回収数をこちらに記載

公表: 令和 5年 4月 17日 事業所名 ビジントレーニング「療育べすとびじょん」

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点	No	集計数	はい	いいえ
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	十分なスペースを確保しています。少人数の場合は、療育スペースにおける活動、多人数の場合や、走り回るなど活発に動く活動においては、隣スペースも開放し、広いスペースを保障している。	1	10	10	
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	指定基準は満たしています。しかし、より丁寧な活動を目指していくためには、誰か欠かると、緊急事態となることもあります。そのような場合には、児発管や、トレーニング教室スタッフが対応し、子どもたちのトレーニング活動の充実を保障し工夫しています。	2	10	10	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	80%	20%	当事業所は、階段を上った2階にあるため、子どもたちの発達の段階に合わせて、適切な支援を工夫し対応をおこなっています。また、活動の切り替わり時には、事前予告や視覚支援を用い、見通しがつきやすいように配慮し、子どもたち自身が自ら考えて行動に移していけるよう、支援に工夫をおこなっています。	3	10	8	2
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	定期的に業務改善に向けた話し合いや、個別のケース会議など実施しています。職員間においても相談しやすい環境にあります。活動を振り返り、その都度考えを伝え合う機会を配慮しています。	4	10	10	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	保護者に向け、事業所向けの評価の結果を踏まえ、改善すべき点を話し合い、これから更なる業務改善に繋げていけるように努めています。	5	10	10	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	昨年度は公表をおこないました。今年度は、保護者の方々が目を通しやすいように、公式ホームページにて公表を予定しています。	6	10	10	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	100%	0%	他の事業所や学校関係者などによる評価を受け、業務改善に向けての話し合いの機会は定期的に設けています。	7	10	10	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	職員のスキルアップのための支援方法やプログラム等、定期的に研修をおこなっています。	8	10	10	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	相談支援員や学校等と連携を取りながら、実際に、子どもたちと関わり、一人一人の発達の段階を見極めたうえで、見立て・手立ての支援内容を組み立てています。また、個別支援計画原案を作成し、一人一人に応じてのケース会議をおこない、子どもの発達についての話し合いを実施し、その結果をもとに定期的に各保護者と面談をおこない、支援計画に反映させています。	9	10	10	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	一人一人、ご利用前に各保護者と面談をおこない、情報の聞き取りをおこないアセスメントシートに起こし、全ての職員が情報を常に共有していけるように使用しています。書式は、基本的な生活習慣に沿って、見やすいように記載を工夫しています。	10	10	10	

適切な支援の提供	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	一人一人が意見を出し合い、丁寧にトレーニング内容を考慮していくことで、子どもたちが楽しみ、いつでも、どこでも、だれとでも力を発揮していけるようなトレーニング内容を工夫しています。	11	10	10
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	ビジョントレーニンに特化した療育プログラムを用意し、定期的に活動内容を見直し、新しい活動を組み込んでいくことで、いつでもやる気が広がっていくように取り組みを工夫しています。	12	10	10
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	時間などには配慮をして対応しています。送迎場所をご自宅や、児童クラブなど、ご家族のニーズにお応えし支援をおこなっています。	13	10	10
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	子ども一人一人の発達の段階を見極め把握し、見立て・手立てを支援計画に組み込み、援目標に沿って活動内容を工夫しておこなっています。	14	10	10
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	業務開始前には、出勤メンバーでミーティングをおこない、その日の役割分担や支援内容の目的など話し合っています。	15	10	10
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	午前と午後に分けて、活動終了後には、子どもの様子の変化や、反省点、支援内容の見直し等の話し合いを必ずおこなっています。	16	10	10
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	日々の支援記録は、導入ソフトHUGより、写真も含め徹底して記録に残しています。また、定期的にミーティングをおこない、記録をもとに支援内容を共有し、より良い療育活動につなげていけるよう改善に努めています。	17	10	10
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	保護者と定期的にモニタリングを行い、それに基づいてモニタリング会議資料を作成し会議をおこない、支援目標・支援内容の見直しをおこなっています。その際、どの職員も、子どもに対しての見立てや手立ての意見を出し合い、常に計画に反映していけるよう努めています。	18	10	10
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	100%	0%	工夫しておこなっています。	19	10	10
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	児童発達支援管理責任者は、相談支援専門員による申し出があると、その対象児童の学校へ出向き、サービス担当者会議に参加している。その際、子どもの様子や、支援目標、支援内容など、必要な事項を記載した資料を必ず作成提出し、保護者、相談員、先生と情報共有をおこない対応をおこなっています。	20	10	10
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	保護者とのやり取り、学校とのやり取りを密におこない、連絡調整をしながら、工夫し対応しています。	21	10	10

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0%	100%	医療的ケアの必要な児童は受け入れておりません。	22		10	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%	0%	常に情報共有をおこない、相談支援専門員を仲立ちとしながら努めています。	23	10	10	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	0%	100%	対象児童がこれまで小学校6年まででしたが、今年度より、中学3年まで広げて対応できるようになりましたので、これからそのような機会がありましたら対応に努めてまいります。	24	10		10
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%	定期的に、連携を取っています。	25	10	10	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	100%	活動する機会を取っていません。	26			10
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0%	100%	参加していません。	27			10
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	各ご自宅に送迎に行った際、保護者の心配事や、発達についての課題、発達の成果を共有してお伝えしています。しかし、午前の対象児童におきましては、保育園から保育園への対応となるため、直接的に保護者と接する機会はほとんどありません。そのような場合におきましても、導入ソフトHUGより、支援内容を細かくご説明し、それに対してのコメントもいただき、成長における情報の共有は工夫しておこなっています。	28	10	10	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	100%	0%	子育ての対応に悩んでいる保護者や心配事を抱えている保護者に対して等、その都度個別に対応しています。どうすれば子育てがしやすくなるのか、子どもへの接し方や声掛けの仕方など、子育てに対しての見通しが少しでも持ちやすくなるように、そして楽しみながら子育てに向き合っていけるように話し合っています。今後は、事業所におきましても、保護者学習会として取り組んでいく方向で準備を進めていけるように考えています。	29	10	10		
保護者への説明	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	重要事項説明書・利用契約書に基づき、適切な説明をおこなっています。	30	10	10	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	お困りの際には、個別でご連絡いただく場合もございますが、送迎時にご相談されるケースもあります。児童発達支援管理責任者がその都度対応しています。	31	10	10	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0%	100%	保護者間の連携は取れておりません。お子さまの活動時に、ご見学に来ていただいて、個別に話し合いをする機会があります。今年度におきましては、事業所全体で運動会を実施し、保護者間の交流を深める機会を設けています。	32	10		10
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	ご家族よりご相談の申し入れがあった場合、迅速対応に応じている。時には、相談支援員と打ち合わせをし、速やかに話し合いの場を設けている。	33	10	10	

説明責任等	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	事業所で導入しているソフトHUGにより、常に保護者様にはお知らせしています。	34	10	10
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	HUGにより、色々と情報を掲載していますが、他の友だちの顔部分を分からないように隠して公開するなどの配慮はきちんと行っています。また、各保護者に対しても、十分に気をつけて対応しています。	35	10	10
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	一人一人の発達の段階に応じて、場面の切り替えりや、事前予告など工夫しておこなっています。保護者に対しても、分かりやすく説明をおこない、見通しを持って接していけるよう配慮はしています。	36	10	10
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0%	100%	おこなっておりません。	37	10	10
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを作成し周知を行っています。保護者に対しても分かりやすく説明を行い、見通しを持って接していけるよう配慮を行っています。	38	10	10
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	地震・火災等における避難訓練を、色々な場面を想定した上でおこなっています。	39	10	10
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	児童発達支援管理責任者は、年に1度研修を受けています。	40	10	10
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	0%	100%	身体拘束を必要とする児童は受け入れておりません。	41	10	10
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	0%	100%	給食は実施しておりませんので、医師による指示書は対応していません。	42	10	10
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	その都度、ヒヤリとした瞬間の情報を共有し、職員間で話し合っています。また、記録に残し保管し、全職員で周知を行っています。	43	10	10